

近代仏教教団と戦争

——日清・日露戦争期を中心に

こばやし あつみち

小林惇道著 ▼A5判・上製カバー・492頁・定価 七、二五〇円



公権力の庇護を失った仏教教団が国家との関係を再構築すべく取り組んだ「戦時事業」を分析し、仏教教団（近代化）への道程を跡づける。

2022年10月刊行

【目次】

序章

【第Ⅰ部 諸制度と「戦時事業」の全体像】

- 第一章 明治期の宗教制度と仏教教団の動向
- 第二章 日清戦争における真言宗・浄土宗の「戦時事業」
- 第三章 日露戦争における真言宗・浄土宗の「戦時事業」

【第Ⅱ部 「戦時事業」の具体相】

- 第四章 近代真言宗の戦死者追弔と組織再編
——護国寺忠霊堂建設をめぐつて
- 第五章 内務省提出文書から見る仏教教団と国家
——浄土宗東京忠魂祠堂建設を中心に
- 第六章 浄土宗忠魂祠堂の地域的多様性
——その重層的性格をめぐつて
- 第七章 日露戦争期における仏教界の戦死者追弔とその評価
——仏教系メディアを中心に

終章 「戦時事業」から見る仏教教団の「近代化」

◆著者略歴

小林惇道（こばやし あつみち）

一九八三年東京都に生まれる。二〇〇六年慶應義塾大学商学部卒業、二〇二〇年大正大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。現在、淑徳大学・東洋大学・亜細亜大学非常勤講師。専門は宗教学、近代日本仏教史。
主な論文に「日清戦争期における仏教教団の戦時事業——浄土宗を中心に」（『佛教文化研究』第六三号、二〇一九年）、「信仰と災害・復興支援活動」（『星野英紀・弓山達也編『東日本大震災後の宗教とコミュニケーション』ハーベスト社、二〇一九年）、「連合組織からみる総力戦期の仏教界」（『歴史評論』第八五六号、二〇二二年）などがある。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
小林惇道著	
法藏館	
定価 七、二五〇円	
近代仏教教団と戦争	
——日清・日露戦争期を中心に	
ISBN: 978-4-8318-5568-8 C3021	
住所	お名前
お電話	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教史・近代